

Ⅲ. 利用者（視覚障害者）編

1. アンケート調査の回答状況

茨城県立点字図書館に利用登録している視覚障害者及び公益財団法人茨城県視覚障害者協会会員等、1,074名にアンケート調査票を郵送したところ、回答者は307名、回答率は28.58%であった。

表1-1：アンケート調査の回答状況

郵 送 数	回 答 数	回 答 率
1,074件	307件	28.58%

1) 属性別の回答状況

① 性別の回答状況

性別でみると、男性が166件で54.1%、女性は114件・37.1%となっている。なお、性別が未記入または不明なものは27件あり、8.8%であった。

表1-2：性別回答状況

項 目	回 答 数	構 成 比
男性	166件	54.1%
女性	114件	37.1%
未記入・不明	27件	8.8%
合計	307件	100.0%

② 年齢別の回答状況

年齢層別でみると、最も回答が多かったのは「65歳～74歳」の前期高齢者層で98件・31.9%、続いて「51歳～64歳」の中高年齢者層が86件・28.0%と続き、後期高齢者層の「75歳以上」が67件・21.8%、若年齢者層の「20歳～50歳」が42件・13.7%となっている。

表1-3：年齢層別回答状況

項 目	回 答 数	構 成 比
若年齢者層（20歳～50歳）	42件	13.7%
中高年齢者層（51歳～64歳）	86件	28.0%
前期高齢者層（65歳～74歳）	98件	31.9%
後期高齢者層（75歳以上）	67件	21.8%

年齢未記入	14件	4.6%
全 県 合 計	307件	100.0%

③ 障害程度別の回答状況

障害程度別にみると、重度（１～２級）が最も多く２６８件・８７．３％と大半を占め、中度（３～４級）及び軽度（５～６級）がそれぞれ１１件・３．６％と同数で並んだ。

表１－４：障害程度別回答状況

項 目	回 答 数	構 成 比
重度（１～２級）	268件	87.3%
中度（３～４級）	11件	3.6%
軽度（５～６級）	11件	3.6%
障害程度未記入	17件	5.5%
全県合計	307件	100.0%

２）地域別の回答状況

県内５地域別の回答状況をみると、県央地域が９３件で最も多く３０．３％、ついで県南地域が８５件で２７．７％、県北地域が６４件で２０．９％となり、県西地域２７件・８．８％、鹿行地域２４件・７．８％となっている。

性別でみていくと、男性の回答総数１６６件のうち、県央地域が５３件・３１．９％と最も多く、ついで県南地域の５０件・３０．１％と続き、県北地域３３件・１９．９％、県西地域１６件・９．６％、鹿行地域１３件・７．８％となっている。

女性では回答総数１１４件のうち、県央地域３４件・２９．８％が最も多く、ついで県南地域３１件・２８．１％、県北地域２８件・２４．６％と続き、県西地域と鹿行地域が同数の１０件・８．８％となっている。

年齢層別でみていくと、若年齢者層（２０歳～５０歳）では、県央地域と県南地域がともに１４件・３３．３％で最も多く、ついで県北地域が６件・１４．３％、県西地域が５件・１１．９％、鹿行地域３件・７．１％となっている。

中高年齢者層（５１歳～６４歳）では、県北地域及び県央地域がともに２６件・３０．２％で最も多く、ついで県南地域が１５件・１７．４％、鹿行

地域が11件・12.8%、県西地域が8件・9.3%となっている。

前期高齢者層（65歳～74歳）では、県央地域及び県南地域がともに30件・30.6%で最も多く、ついで県北地域が21件・21.4%、県西地域が8件・8.2%、鹿行地域が7件・7.1%となっている。

後期高齢者層（75歳以上）では県南地域が26件・38.8%で最も多く、ついで県央地域が22件・32.8%、県北地域が11件・16.4%、県西地域が6件・9.0%、鹿行地域が2件・3.0%となっている。

県央地域では各年齢層がおおよそ万遍なく回答しているのに対し、県北地域では中高年齢者層と後期高齢者層の回答が多く、県南地域では若年齢者層と後期高齢者層の回答が高くなっており、中高年齢者層の落ち込みが目立っている。また、鹿行地域では中高年齢者層の回答が多く、後期高齢者層の落ち込みが目立っており、県西地域では若年齢者層の回答が比較的高く前期高齢者層で落ち込んでいる。

障害程度別でみていくと、障害程度が重度（1級～2級）では、県央地域が84件・31.3%と最も多く、ついで県南地域が74件・27.6%、県北地域が59件・22.2%、県西地域が27件・10.1%、鹿行地域が22件・8.2%となっている。

障害程度・中度（3級～4級）では、県央地域が6件・54.5%で最も多く、県南地域が5件・45.5%となっている。

障害程度・軽度（5級～6級）では県南地域が5件・45.5%で最も多く、ついで県北地域及び県央地域がともに3件・27.3%となっている。

表1-5：地域別回答状況（上段：回答数、下段：構成比）

項目		県北	県央	鹿行	県南	県西	未記入	合計
回答数		64	93	24	85	27	14	307件
構成比		20.9%	30.3%	7.8%	27.7%	8.8%	4.6%	100%
性別	男性	33 19.9%	53 31.9%	13 7.8%	50 30.1%	16 9.6%	1 0.6%	166件 100%
	女性	28 24.6%	34 29.8%	10 8.8%	32 28.1%	10 8.8%	0 0.0%	114件 100%
	性別未記入	3 11.1%	6 22.2%	1 3.7%	3 11.1%	1 3.7%	13 48.2%	27件 100%
年齢	若年齢者層 (20～50)	6 14.3%	14 33.3%	3 7.1%	14 33.3%	5 11.9%	0 0.0%	42件 100%
	中高年齢者層	26	26	11	15	8	0	86件

年齢別	(51～64)	30.2%	30.2%	12.8%	17.4%	9.3%	0.0%	100%
	前期高齢者層 (65～74)	21 21.4%	30 30.6%	7 7.1%	30 30.6%	8 8.2%	2 2.0%	98件 100%
	後期高齢者層 (75～)	11 16.4%	22 32.8%	2 3.0%	26 38.8%	6 9.0%	0 0.0%	67件 100%
	年齢未記入	0 0.0%	1 7.1%	1 7.1%	0 0.0%	0 0.0%	12 85.7%	14件 100%
障害程度別	重度	59 22.2%	84 31.3%	22 8.2%	74 27.6%	27 10.1%	2 0.7%	268件 100%
	中度	0 0.0%	6 54.5%	0 0.0%	5 45.5%	0 0.0%	0 0.0%	11件 100%
	軽度	3 27.3%	3 27.3%	0 0.0%	5 45.5%	0 0.0%	0 0.0%	11件 100%
	障害程度未記入	2 11.8%	0 0.0%	2 11.8%	1 5.9%	0 0.0%	12 70.6%	17件 100%

※ パーセンテージは小数点第2位を四捨五入しているため、必ずしも小計・合計があわない場合がある（以下の表も同じ。）。

2. 同行援護制度の認知度

同行援護制度を知っているかを質問したところ、制度を知っている者（認知度）は、「ア. よく知っている」86件・28.0%と「イ. ある程度知っている」99件・32.2%を合わせて、185件・60.3%となった。

その一方、制度を知らない者は、「ウ. 詳しく知らない」61件・19.9%と「エ. まったく知らない」60件・19.5%を合わせて121件・39.4%となった。

表2：制度の認知度（全体）

項目	回答数	構成比
ア. よく知っている	86件	28.0%
イ. ある程度知っている	99件	32.2%
ア+イ小計	185件	60.3%
ウ. 詳しく知らない	61件	19.9%
エ. まったく知らない	60件	19.5%
ウ+エ小計	121件	39.4%
オ. 未記入	1件	0.3%

合計	307件	100.0%
----	------	--------

1) 属性別の認知度

① 性別の認知度

性別でみると、認知度（「ア. よく知っている」＋「イ. ある程度知っている」）は男性で103件・62.0%、女性で69件・60.5%となった。男性では女性よりも「ア. よく知っている」者の割合が高く、女性では「イ. ある程度知っている」者の割合が高かった。

逆に制度を知らない者（「ウ. 詳しく知らない」＋「エ. まったく知らない」）はともに40%を切っているが、女性は45件・39.5%で、男性の62件・37.3%より知らない者の割合が2%あまり高かった。

男性では、女性に比較して、「よく知っている」者と「まったく知らない」者の割合が高く、制度を知っている人も多いが知らない人も多い傾向がうかがえる。

表2-1：制度の認知度（性別）

（上段：回答数、下段：構成比）

項 目		ア. よく知っている	イ. ある程度知っている	ア＋イの小計	ウ. 詳しく知らない	エ. まったく知らない	ウ＋エの小計	未記入	合 計
性別	男 性	51 30.7%	52 31.3%	103 62.0%	29 17.5%	33 19.9%	62 37.3%	1 0.6%	166件 100%
	女 性	31 27.2%	38 33.3%	69 60.5%	24 21.1%	21 18.4%	45 39.5%	0 0.0%	114件 100%
	性別未記入	4 14.8%	9 33.3%	13 48.1%	8 29.6%	6 22.2%	14 51.9%	0 0.0%	27件 100%
	合 計	86 28.0%	99 32.2%	185 60.3%	61 19.9%	60 19.5%	121 39.4%	1 0.3%	307件 100%

② 年齢別の認知度

年齢別の認知度では、「65歳～74歳」の前期高齢者層の認知度が一番高く72件・73.5%に達しているのに対し、「20歳～50歳」の若年齢者層が21件・50.0%、及び「75歳以上」の後期高齢者層が34件・50.7%とかろうじて半数程度と認知度が低くなっており、年代層別の格差がみられる。

また、各世代で割合の最も高い項目を見ていくと、「51歳～64歳」

の中高年齢者層では「ア. よく知っている」が27件・31.4%、「65歳～74歳」の前期高齢者層では「イ. ある程度知っている」が42件・42.9%となっているのに対し、「20歳～50歳」の若年齢者層では「ウ. 詳しく知らない」14件・33.3%、「75歳以上」の後期高齢者層では「エ. まったく知らない」が21件・31.3%となっており、世代間で同行援護制度に関する認知度に関きが読み取れる。

表2-2：制度の認知度（年齢別）（上段：回答数、下段：構成比）

項 目		ア.よく 知って いる	イ.ある 程度知 っている	ア＋イ の小計	ウ.詳し く知ら ない	エ. ま ったく 知らな い	ウ＋エ の小計	未記入	合 計
年 齢 層 別	若年齢 者層	8 19.0%	13 31.0%	21 50.0%	14 33.3%	7 16.7%	21 50.0%	0 0.0%	42件 100%
	中高年 齢者層	27 31.4%	24 27.9%	51 59.3%	21 24.4%	14 16.3%	35 40.7%	0 0.0%	86件 100%
	前期高 齢者層	30 30.6%	42 42.9%	72 73.5%	11 11.2%	14 14.3%	25 25.5%	1 1.0%	98件 100%
	後期高 齢者層	18 26.9%	16 23.9%	34 50.7%	12 17.9%	21 31.3%	33 49.3%	0 0.0%	67件 100%
	年齢未 記入	3 21.4%	4 28.6%	7 50.0%	3 21.4%	4 28.6%	7 50.0%	0 0.0%	14件 100%
合 計		86 28.0%	99 32.2%	185 60.3%	61 19.9%	60 19.5%	121 39.4%	1 0.3%	307件 100%

③ 障害程度別の認知状況

障害程度別でみると、重度（1級～2級）においては、「ア. よく知っている」及び「イ. ある程度知っている」者の割合が166件・61.9%で、全県をやや上回っているのに対し、中度（3級～4級）では6件・54.5%、軽度（5級～6級）では4件・36.4%と、障害程度が軽くなるにしたがって、制度の認知度が低下している。

表2-3：制度の認知度（障害程度別）（上段：件数、下段：構成比）

項 目		ア.よく 知って いる	イ.ある 程度知 ってい	ア＋イ の小計	ウ.詳し く知ら ない	エ. ま ったく 知らな	ウ＋エ の小計	未記入	合 計
-----	--	-------------------	--------------------	------------	-------------------	--------------------	------------	-----	-----

		る		い					
障 害 程 度 別	重度	78 29.1%	88 32.8%	166 61.9%	51 19.0%	51 19.0%	102 38.1%	0 0.0%	268件 100%
	中度	2 18.2%	4 36.4%	6 54.5%	2 18.2%	2 18.2%	4 36.4%	1 9.1%	11件 100%
	軽度	2 18.2%	2 18.2%	4 36.4%	3 27.3%	4 36.4%	7 63.6%	0 0.0%	11件 100%
	障害未 記入	4 23.5%	5 29.4%	9 52.9%	5 29.4%	3 17.6%	8 47.1%	0 0.0%	17件 100%
合 計		86 28.0%	99 32.2%	185 60.3%	61 19.9%	60 19.5%	121 39.4%	1 0.3%	307件 100%

2) 地域別の認知度

地域別でみると、認知度が最も高いのは県西地域で20件・74.1%、ついで鹿行地域が17件・70.8%、県南地域が52件・61.2%、県北地域が38件・59.4%となり、県央地域が最も低い52件・55.9%となっており、認知度に地域間格差がみられる。

「ア. よく知っている」の割合が最も高いのは県西地域の11件・40.7%で、鹿行地域が8件・33.3%、県北地域が20件・31.3%、県南地域が24件・28.2%となり、県央地域は全県28.0%を大きく下回る20件・21.5%となっている。

「イ. ある程度知っている」の割合が最も高いのは鹿行地域の9件・37.5%で、県央地域が32件・34.4%、県西地域が9件・33.3%、県南地域が28件・32.9%となり、県北地域が全県32.2%を下回る18件・28.1%となっている。

「ウ. 詳しく知らない」の割合が最も高いのは県北地域の18件・28.1%で、他の4地域は県西地域が5件・18.5%、県央地域が17件・18.3%、県南地域が14件・16.5%、鹿行地域が3件・12.5%と全県19.9%を下回っている。

「エ. まったく知らない」の割合が最も高いのは県央地域の23件・24.7%で、県南地域が19件・22.4%、他の3地域は鹿行地域が4件・16.7%、県北地域が8件・12.5%、県西地域が2件・7.4%と全県19.5%を下回っている。

県北地域では、ほぼ全県の認知度であるが、「ウ. 詳しく知らない」の割合の高い点が目立つ一方、県央地域は地域間で最低の認知度であり、しかも「エ. まったく知らない」者がおよそ4分の1いる。

鹿行地域及び県西地域は全県を大きく上回る認知率だが、鹿行地域においては「エ. まったく知らない」者の割合が比較的高く、県西地域においては「ウ. 詳しく知らない」者の割合が高くなっている。

県南地域はほぼ全県の認知度であるが、「エ. まったく知らない」者の割合が5分の1を超えている。

表2-4：地域別同行援護制度の認知度 (上段：回答数、下段：構成比)

項 目		ア. よく知っている	イ. ある程度知っている	ア＋イの小計	ウ. 詳しく知らない	エ. まったく知らない	ウ＋エの小計	未記入	合 計
地 域 別	県北地域	20 31.3%	18 28.1%	38 59.4%	18 28.1%	8 12.5%	26 40.6%	0 0.0%	64件 100%
	県央地域	20 21.5%	32 34.4%	52 55.9%	17 18.3%	23 24.7%	40 43.0%	1 1.1%	93件 100%
	鹿行地域	8 33.3%	9 37.5%	17 70.8%	3 12.5%	4 16.7%	7 29.2%	0 0.0%	24件 100%
	県南地域	24 28.2%	28 32.9%	52 61.2%	14 16.5%	19 22.4%	33 38.8%	0 0.0%	85件 100%
	県西地域	11 40.7%	9 33.3%	20 74.1%	5 18.5%	2 7.4%	7 25.9%	0 0.0%	27件 100%
	地域未記入	3 21.4%	3 21.4%	6 42.9%	4 28.6%	4 28.6%	8 57.1%	0 0.0%	14件 100%
全 県		86 28.0%	99 32.2%	185 60.3%	61 19.9%	60 19.5%	121 39.4%	1 0.3%	307件 100%

① 性別の認知度

制度の認知度（「ア. よく知っている」＋「イ. ある程度知っている」）を見ていくと、男性においては、県西地域が12件・75.0%で最も高く、次いで鹿行地域が9件・69.2%となるが、他の3地域は全県の62.0%を2%程度下回る60%台となっている。

また、県央地域を除く4地域は「ア.」が「イ.」を上回っているのに対し、県央地域では「ア.」が「イ.」の半分にも満たない低い状況であった。

逆に制度を知らない者（「ウ. 詳しく知らない」＋「エ. まったく知らない」）の割合は、県南地域が20件・40.0%で最も高く、県北地域が13件・39.4%、県央地域が20件・37.7%で、全県の37.7%。

3%を上回っている。特に、県南地域と県央地域は「ウ。」よりも「エ。」の割合が高くなっている。

表2-5：地域別男性の認知度

上段：回答数、下段：構成比）

項 目		ア.よく 知っている	イ.ある 程度知 っている	ア＋イ の小計	ウ.詳し く知ら ない	エ. ま ったく 知らな い	ウ＋エ の小計	未記入	合 計
地 域 別	県北地域	12 36.4%	8 24.2%	20 60.6%	9 27.3%	4 12.1%	13 39.4%	0 0.0%	33件 100%
	県央地域	10 18.9%	22 41.5%	32 60.4%	9 17.0%	11 20.8%	20 37.7%	1 1.9%	53件 100%
	鹿行地域	6 46.2%	3 23.1%	9 69.2%	2 15.4%	2 15.4%	4 30.8%	0 0.0%	13件 100%
	県南地域	16 32.0%	14 28.0%	30 60.0%	6 12.0%	14 28.0%	20 40.0%	0 0.0%	50件 100%
	県西地域	7 43.8%	5 31.3%	12 75.0%	3 18.8%	1 6.3%	4 25.0%	0 0.0%	16件 100%
	地域未記 入	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100%	1 100%	0 0.0%	1件 100%
全 県		51 30.7%	52 31.3%	103 62.0%	29 17.5%	33 19.9%	62 37.3%	1 0.6%	166件 100%

女性においては、鹿行地域と県西地域がともに「ア.」＋「イ.」がともに7件・70.0%と認知度が高いのに対して、県央地域が18件・52.9%と、全県60.5%を大きく下回っている。しかしながら、「ア.」においては県西地域が4件・40.0%なのに対して鹿行地域が2件・20.0%と5地域の中で最も低くなっている。

また、制度を知らない者（「ウ.」＋「エ.」）の割合が高いのは県央地域が16件・47.1%で最も高くなっており、さらに制度をまったく知らない「エ.」に着目すれば、県央地域が10件・29.4%、県南地域が4件・22.4%で、全県の18.4%を上回っている状況である。

表2-6：地域別女性の認知度

（上段：回答数、下段：構成比）

項 目		ア.よく 知っている	イ.ある 程度知 っている	ア＋イ の小計	ウ.詳し く知ら ない	エ. ま ったく 知らな	ウ＋エ の小計	未記入	合 計
-----	--	---------------	---------------------	------------	-------------------	--------------------	------------	-----	-----

			る			い			
地域別	県北地域	8 31.3%	9 28.1%	17 59.4%	7 28.1%	4 12.5%	11 40.6%	0 0.0%	28件 100%
	県央地域	9 26.5%	9 26.5%	18 52.9%	6 17.6%	10 29.4%	16 47.1%	0 0.0%	34件 100%
	鹿行地域	2 20.0%	5 50.0%	7 70.0%	1 10.0%	2 20.0%	3 30.0%	0 0.0%	10件 100%
	県南地域	8 28.2%	12 32.9%	20 61.2%	8 16.5%	4 22.4%	12 38.8%	0 0.0%	32件 100%
	県西地域	4 40.0%	3 30.0%	7 70.0%	2 20.0%	1 10.0%	3 30.0%	0 0.0%	10件 100%
	地域未記入	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0件 0.0%
全 県		31 27.2%	38 33.3%	69 60.5%	24 21.1%	21 18.4%	45 39.5%	0 0.0%	114件 100%

② 年齢層別の認知率

若年齢者層（20歳～50歳）においては、県北地域（4件）と鹿行地域（2件）の認知度（「ア.」＋「イ.」）がともに66.7%で最も高く、県南地域は7件・50.0%、県央地域は6件・42.9%となり、県西地域が2件・40.0%で最低となるが、「ア.」は県西地域が最も高い2件・40.0%となった。

制度を知らない者（「ウ.」＋「エ.」）の割合は、県西地域で3件・60.0%と最も高く、県央地域が8件・57.1%、県南地域が7件・50.0%、県北地域（2件）及び鹿行地域（1件）がともに33.3%と低くなっており、「エ.」の割合では県央地域が4件・28.6%と最も高くなっている。

表2-7：地域別若年齢者層（20歳～50歳）の認知度

（上段：回答数、下段：構成比）

項 目	ア.よく知っている	イ.ある程度知っている	ア＋イの小計	ウ.詳しく知らない	エ.まったく知らない	ウ＋エの小計	未記入	合 計
県北地域	1 16.7%	3 50.0%	4 66.7%	2 33.3%	0 0.0%	2 33.3%	0 0.0%	6件 100%

地域別	県央地域	2 14.3%	4 28.6%	6 42.9%	4 28.6%	4 28.6%	8 57.1%	0 0.0%	14件 100%
	鹿行地域	1 33.3%	1 33.3%	2 66.7%	1 33.3%	0 0.0%	1 33.3%	0 0.0%	3件 100%
	県南地域	2 14.3%	5 35.7%	7 50.0%	5 35.7%	2 14.3%	7 50.0%	0 0.0%	14件 100%
	県西地域	2 40.0%	0 0.0%	2 40.0%	2 40.0%	1 20.0%	3 60.0%	0 0.0%	5件 100%
	地域未記入	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0件 0.0%
全 県		8 19.0%	13 31.0%	21 50.0%	14 33.3%	7 16.7%	21 50.0%	0 0.3%	42件 100%

中高年齢者層（５１歳～６４歳）においては、県北地域の認知度（「ア。」＋「イ。」）が１７件・６５．４％と最も高く、鹿行地域が７件・６３．６％、県西地域が５件・６２．５％、県南地域が９件・６０．０％と続くが、県央地域のみが１３件・５０．０％と全県の認知度・５９．３％を下回っている。

制度を知らない者（「ウ。」＋「エ。」）の割合は、県央地域が１３件・５０．０％で最も高く、県南地域６件・４０．０％と続くが、「エ。」の割合においても県央地域が７件・２６．９％と飛びぬけて高くなっている。

表２－８：地域別中高年齢者層（５１歳～６４歳）の認知度

（上段：回答数、下段：構成比）

項 目		ア.よく 知っている	イ.ある 程度知 っている	ア＋イ の小計	ウ.詳し く知ら ない	エ. ま ったく 知らない	ウ＋エ の小計	未記入	合 計
地域	県北地域	10 38.5%	7 26.9%	17 65.4%	7 26.9%	2 7.7%	9 34.6%	0 0.0%	26件 100%
	県央地域	4 15.4%	9 34.6%	13 50.0%	6 23.1%	7 26.9%	13 50.0%	0 1.1%	26件 100%
	鹿行地域	5 45.5%	2 18.2%	7 63.6%	2 18.2%	2 18.2%	4 36.4%	0 0.0%	11件 100%
	県南地域	5 33.3%	4 26.7%	9 60.0%	4 26.7%	2 13.3%	6 40.0%	0 0.0%	15件 100%
	県西地域	3	2	5	2	1	3	0	8件

別		37.5%	25.0%	62.5%	25.0%	12.5%	37.5%	0.0%	100%
	地域未記入	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0件 0.0%
	全 県	27 31.4%	24 27.9%	51 59.3%	21 24.4%	14 16.3%	35 40.7%	0 0.0%	86件 100%

前期高齢者層（６５歳～７４歳）においては、認知度（「ア。」＋「イ。」）は県西地域が８件・１００％、鹿行地域が６件・８５．７％、県央地域及び県南地域がともに２３件・７６．７％と高くなっているが、県北地域のみが１２件・５７．１％と全県の７３．５％を下回っている。

制度知らない者（「ウ。」＋「エ。」）の割合は、県央地域が６件・４２．９％で最も高くなっているが、「ウ。」においては県北地域のみが６件・２８．６％と、制度をまったく知らない「エ。」においては県南地域のみが５件・１６．７％と、それぞれ全県を上回っている。

表２－９：地域別前期高齢者層（６５歳～７４歳）の認知度

（上段：回答数、下段：構成比）

項 目		ア.よく知っている	イ.ある程度知っている	ア＋イの小計	ウ.詳しく知らない	エ.まったく知らない	ウ＋エの小計	未記入	合 計
地 域 別	県北地域	5 23.8%	7 33.3%	12 57.1%	6 28.6%	3 14.3%	9 42.9%	0 0.0%	21件 100%
	県央地域	9 30.0%	14 46.7%	23 76.7%	2 6.7%	4 13.3%	6 20.0%	1 3.3%	30件 100%
	鹿行地域	2 28.6%	4 57.1%	6 85.7%	0 0.0%	1 14.3%	1 14.3%	0 0.0%	7件 100%
	県南地域	9 30.0%	14 46.7%	23 76.7%	2 6.7%	5 16.7%	7 23.3%	0 0.0%	30件 100%
	県西地域	5 62.5%	3 37.5%	8 100%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	8件 100%
	地域未記入	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 50.0%	1 50.0%	2 100%	0 0.0%	2件 100%
全 県		30 30.6%	42 42.9%	72 73.5%	11 11.2%	14 14.3%	25 25.5%	1 1.0%	98件 100%

後期高齢者層（７５歳以上）においては、県西地域の認知度（「ア.」＋「イ.」）が５件・８３．３％と飛び抜けて高くなっており、他の４地域はいずれも全県の５０．７％を下回る数字となっている。

制度を知らない者（「ウ.」＋「エ.」）の割合は、県北地域が６件・５５．５％、県央地域が１２件・５４．５％と高くなっているが、「エ.」においては県南地域が１０件・３８．５％と最も高くなっている。

表２－１０：地域別後期高齢者層（７５歳以上）の認知度

（上段：回答数、下段：構成比）

項 目		ア.よく 知っている	イ.ある 程度知 っている	ア＋イ の小計	ウ.詳し く知ら ない	エ. ま ったく 知らない	ウ＋エ の小計	未記入	合 計
地 域 別	県北地域	４ 36.4%	１ 9.1%	５ 45.5%	３ 27.3%	３ 27.3%	６ 55.5%	０ 0.0%	１１件 100%
	県央地域	５ 22.7%	５ 22.7%	１０ 45.5%	５ 22.7%	７ 31.8%	１２ 54.5%	０ 0.0%	２２件 100%
	鹿行地域	０ 0.0%	１ 50.0%	１ 50.0%	０ 0.0%	１ 50.0%	１ 50.0%	０ 0.0%	２件 100%
	県南地域	８ 30.8%	５ 19.2%	１３ 50.0%	３ 11.5%	１０ 38.5%	１３ 50.0%	０ 0.0%	２６件 100%
	県西地域	１ 16.7%	４ 66.7%	５ 83.3%	１ 16.7%	０ 0.0%	１ 16.7%	０ 0.0%	６件 100%
	地域未記 入	０ 0.0%	０ 0.0%	０ 0.0%	０ 0.0%	０ 0.0%	０ 0.0%	０ 0.0%	０件 0.0%
全 県		１８ 26.9%	１６ 23.9%	３４ 50.7%	１２ 17.9%	２１ 31.3%	３３ 49.3%	０ 0.0%	６７件 100%

④ 障害程度別

重度障害者（１級～２級）において、最も認知度（「ア.」＋「イ.」）が高いのは県西地域の２０件・７４．１％で、鹿行地域が１５件・６８．２％、県南地域が４９件・６６．２％と続くが、のは、県北地域の３５件・５９．３％、及び県央地域の４７件・５６．０％は全県の６１．９％を下回っている。

制度を知らない者（「ウ.」＋「エ.」）の割合が高いのは、県央地域の３７

件・44.0%、県北地域の24件・40.7%だが、「エ。」と答えたものが最も多かったのは県央地域の21件・25.0%、県南地域の15件・20.3%となっている。

表2-11：地域別重度障害者（1級～2級）の認知度

（上段：回答数、下段：構成比）

項 目		ア.よく知っている	イ.ある程度知っている	ア＋イの小計	ウ.詳しく知らない	エ.まったく知らない	ウ＋エの小計	未記入	合 計
地 域 別	県北地域	19 32.2%	16 27.1%	35 59.3%	16 27.1%	8 13.6%	24 40.7%	0 0.0%	59件 100%
	県央地域	18 21.4%	29 34.5%	47 56.0%	16 19.0%	21 25.0%	37 44.0%	0 0.0%	84件 100%
	鹿行地域	7 31.8%	8 36.4%	15 68.2%	3 13.6%	4 18.2%	7 31.8%	0 0.0%	22件 100%
	県南地域	23 31.1%	26 35.1%	49 66.2%	10 13.5%	15 20.3%	25 33.8%	0 0.0%	74件 100%
	県西地域	11 40.7%	9 33.3%	20 74.1%	5 18.5%	2 7.4%	7 25.9%	0 0.0%	27件 100%
	地域未記入	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 50.0%	1 50.0%	2 100%	0 0.0%	2件 100%
全 県		78 29.1%	88 32.8%	166 61.9%	51 19.0%	51 19.0%	102 38.1%	0 0.0%	268件 100%

中度障害者（3級～4級）において、回答があったのは県央地域と県南地域のみであるが、県央地域が制度を知っている者（「ア。」＋「イ。」）が4件・66.7%と多いのに対し、県南地域は制度を知らない者（「ウ。」＋「エ。」）が3件・60.0%と多くなっており、対照的となっている。

表2-12：地域別中度障害者（3級～4級）の認知度

（上段：回答数、下段：構成比）

項 目		ア.よく知っている	イ.ある程度知っている	ア＋イの小計	ウ.詳しく知らない	エ.まったく知らない	ウ＋エの小計	未記入	合 計
	県北地域	0	0	0	0	0	0	0	0件

地域別		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	県央地域	2 33.3%	2 33.3%	4 66.7%	0 0.0%	1 16.7%	1 16.7%	1 16.7%	6件 100%
	鹿行地域	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0件 0.0%
	県南地域	0 0.0%	2 40.0%	2 40.0%	2 40.0%	1 20.0%	3 60.0%	0 0.0%	5件 100%
	県西地域	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0件 0.0%
	地域未記入	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0件 0.0%
全 県		2 18.2%	4 36.4%	6 54.5%	2 18.2%	2 18.2%	4 36.4%	1 9.1%	11件 100%

軽度障害者（５級～６級）において、回答があったのは県北地域・県央地域・県南地域の３地域であるが、県北地域が２件・６６．７％と認知度（「ア．」＋「イ．」）が高いのに対し、制度を知らない者（「ウ．」＋「エ．」）の割合が県央地域で２件・６６．７％、県南地域が４件・８０．０％と高くなっている。

表２－１３：地域別軽度障害者（５級～６級）の認知度

（上段：回答数、下段：構成比）

項 目		ア．よく知っている	イ．ある程度知っている	ア＋イの小計	ウ．詳しく知らない	エ．まったく知らない	ウ＋エの小計	未記入	合 計
地域別	県北地域	1 33.3%	1 33.3%	2 66.7%	1 33.3%	0 0.0%	1 33.3%	0 0.0%	3件 100%
	県央地域	0 0.0%	1 33.3%	1 33.3%	1 33.3%	1 33.3%	2 66.7%	0 0.0%	3件 100%
	鹿行地域	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0件 0.0%
	県南地域	1 20.0%	0 0.0%	1 20.0%	1 20.0%	3 60.0%	4 80.0%	0 0.0%	5件 100%
	県西地域	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0件 0.0%

	地域未記 入	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0件 0.0%
全 県		2 18.2%	2 18.2%	4 36.4%	3 27.3%	4 36.4%	7 63.6%	0 0.0%	11件 100%

3. 同行援護制度の利用状況

1) 同行援護制度の利用度

同行援護制度の利用状況について尋ねたところ、「ア. よく利用している」は72件・23.5%で、「イ. たまに利用している」は45件・14.7%であり、合計117件・38.1%の者が利用していた。

逆に、「ウ. 過去に利用したことがある」が17件・5.5%で、「エ. 今まで利用したことがない」が163件・53.1%であり、合計180件・58.6%の者が利用していない状況であった。

地域別に利用度（「ア.」＋「イ.」）が高いのは鹿行地域の11件・45.8%、県西地域の12件・44.4%、県北地域の28件・43.8%であり、県南地域の32件・37.6%と県央地域の30件・32.3%は全県の38.1%より低くなっている。

逆に利用していない（「ウ.」＋「エ.」）割合が高いのは県央地域63件・67.7%であり、他の4地域は全県の58.6%より低くなっている（県南地域48件・56.5%、県北地域34件・53.1%、県西地域14件・51.9%、鹿行地域12件・50.0%）。

表3：同行援護制度の利用状況（地域別）（上段：回答数、下段：構成比）

項 目		ア. よく利用している	イ. たまに利用している	ア＋イの小計	ウ. 過去に利用したことがある	エ. 今まで利用したことがない	ウ＋エの小計	未記入	合 計
地 域	県北地域	19 29.7%	9 14.1%	28 43.8%	5 7.8%	29 45.3%	34 53.1%	2 3.1%	64件 100%
	県央地域	16 17.2%	14 15.1%	30 32.3%	7 7.5%	56 60.2%	63 67.7%	0 0.0%	93件 100%
	鹿行地域	7 29.2%	4 16.7%	11 45.8%	2 8.3%	10 41.7%	12 50.0%	1 4.2%	24件 100%
	県南地域	19	13	32	2	46	48	5	85件

別		22.4%	15.3%	37.6%	2.4%	54.1%	56.5%	5.9%	100%
	県西地域	8 29.6%	4 14.8%	12 44.4%	1 3.7%	13 48.1%	14 51.9%	1 3.7%	27件 100%
	地域未記入	3 21.4%	1 7.1%	4 28.6%	0 0.0%	9 64.3%	9 64.3%	1 7.1%	14件 100%
全 県		72 23.5%	45 14.7%	117 38.1%	17 5.5%	163 53.1%	180 58.6%	10 3.3%	307件 100%

① 性別の利用状況

利用状況を性別でみると、男性63件・38.0%より女性の方が46件・40.4%と高くなっているが、利用頻度(「ア.」)は男性が43件・25.9%であり、女性の24件・21.1%より高くなっている。

利用していない者の割合は、男性が96件・57.8%、女性が66件・57.9%でほぼ同数であった。

表3-1：同行援護制度の利用状況(性別) (上段：回答数、下段：構成比)

項 目		ア.よく利用している	イ.たまに利用している	ア+イの小計	ウ.過去に利用したことがある	エ.今まで利用したことがない	ウ+エの小計	未記入	合 計
性別	男 性	43 25.9%	20 12.0%	63 38.0%	8 4.8%	88 53.0%	96 57.8%	7 4.2%	166件 100%
	女 性	24 21.1%	22 19.3%	46 40.4%	8 7.0%	58 50.9%	66 57.9%	2 1.8%	114件 100%
	性別未記入	5 18.5%	3 11.1%	8 29.6%	1 3.7%	17 63.0%	18 66.7%	1 3.7%	27件 100%
合 計		72 23.5%	45 14.7%	117 38.1%	17 5.5%	163 53.1%	180 58.6%	10 3.3%	307件 100%

② 年齢層別利用状況

年齢層別に利用状況をみると、中高年齢者層(51歳～64歳)の利用率39件・45.3%が最も高く、前期高齢者層(65歳～74歳)が41件・41.8%と続くが、後期高齢者層(75歳以上)では23件・34.3%、若年齢者層(20歳～50歳)は最も低い11件・26.2%となっている。

利用していない者の割合が高いのは、若年齢者層の30件・71.4%、

後期高齢者層の３９件・５８．２％であるが、どの年齢層も過半数を超えている。

表３－２：同行援護制度の利用状況（年齢層別）

（上段：回答数、下段：構成比）

項 目		ア.よく利用している	イ.たまに利用している	ア＋イの小計	ウ.過去に利用したことがある	エ.今まで利用したことがない	ウ＋エの小計	未記入	合 計
年 齢 層 別	若年齢者層	7 16.7%	4 9.5%	11 26.2%	3 7.1%	27 64.3%	30 71.4%	1 2.3%	42件 100%
	中高年齢者層	23 26.7%	16 18.6%	39 45.3%	3 3.5%	43 50.0%	46 53.5%	1 1.2%	86件 100%
	前期高齢者層	26 26.5%	15 15.3%	41 41.8%	8 8.2%	46 46.9%	54 55.1%	3 3.1%	98件 100%
	後期高齢者層	13 19.4%	10 14.9%	23 34.3%	3 4.5%	36 53.7%	39 58.2%	5 7.5%	67件 100%
	年齢未記入	3 21.4%	0 0.0%	3 21.4%	0 0.0%	11 78.6%	11 78.6%	0 0.0%	14件 100%
合 計		72 23.5%	45 14.7%	117 38.1%	17 5.5%	163 53.1%	180 58.6%	10 3.3%	307件 100%

③ 障害程度別の利用状況

障害程度別に利用状況をみると、利用はほぼ重度障害者（１級～２級）に限られており、１１１件・４１．４％であった。

中度障害者（３級～４級）及び軽度障害者（５級～６級）の利用はともに同数の１件・９．１％であった。

表３－３：同行援護制度の利用状況（障害程度別）

（上段：回答数、下段：構成比）

項 目		ア.よく利用している	イ.たまに利用している	ア＋イの小計	ウ.過去に利用したことがある	エ.今まで利用したことがない	ウ＋エの小計	未記入	合 計
	重度	67	44	111	17	132	149	8	268件

		25.0%	16.4%	41.4%	6.3%	49.3%	55.6%	3.0%	100%
障害 程度 別	中度	1 9.1%	0 0.0%	1 9.1%	0 0.0%	9 81.8%	9 81.8%	1 9.1%	11件 100%
	軽度	1 9.1%	0 0.0%	1 9.1%	0 0.0%	10 90.9%	10 90.9%	0 0.0%	11件 100%
	障害未 記入	3 17.6%	1 5.9%	4 23.5%	0 0.0%	12 70.6%	12 70.6%	1 5.9%	17件 100%
合 計		72 23.5%	45 14.7%	117 38.1%	17 5.5%	163 53.1%	180 58.6%	10 3.3%	307件 100%

2) 同行援護制度を利用しない理由

同行援護制度を利用していない(「ウ. 過去に利用したことがある」+「エ. 今まで利用したことがない」と回答した者にその理由を聞いたところ、最も多かったのは「ウ. 家族等の援助が身近に得られるから」で75件・28.0%であった。

次に「オ. 同行援護制度を利用する手続きがわからない」48件17.9%、「イ. 一人で外出できるから」46件・17.2%、「エ. 近くに依頼できる同行援護事業所がないから」28件・10.5%、「ア. 外出をあまりしないから」23件・8.6%、「カ. 同行援護制度の手続きが面倒だから」15件・5.6%と続いた。

「キ. その他」は33件・12.3%であったが、理由が記された32件のうち、予約制なので使いたいときに即使えない、公共機関しか使えず不便など同行援護サービスの使い勝手に関する理由が12件と最も多く、次いで、制度を知らなかったとする理由が9件、事業所が少ない、利用していた事業所が同行援護サービスをやめたなど「エ」にも通じる理由が3件あった。

以上から、同行援護の必要性を感じていない「ア」+「イ」+「ウ」は144件・53.8%に対し、同行援護にアプローチしようという意欲が感じられる「エ」+「オ」+「カ」+「キ」は91件・46.3%となり、約半数程度は利用したくても利用できない(利用しない)状況にあるといえる。

次に、地域別にみると、県北地域では、利用手続きがわからないとする「オ」が15件・24.6%で最も高く、5地域の中でもその割合が一番高かった。2番目には家族等の援助の「ウ」が13件・21.3%で全県を大きく下回って5地域中最下位であった。3番目は一人で外出が可能な「イ」が11件・18.0%となった。

県央地域では、家族等の援助の「ウ」が30件・36.1%で最も高く、

5地域中でも一番高かった。ついで一人で外出の「イ」が16件・19.3%、利用手続きがわからないとする「オ」が11件・13.3%となったが、手続きが面倒とする「カ」が全県より高い5件・6.0%あった。

鹿行地域ではやはり家族等の援助の「ウ」が5件・31.3%と最も高く、5地域中では県央地域に次いで2番目に高かった。ついで高かったのは、近くに事業所がないとする「エ」が4件・25.0%あり、全県の2倍以上高く、5地域中でも最も高かった。また、利用手続きがわからないとする「オ」も3件・18.8%で5地域中2番目に高かったが、外出をしないとする「ア」は2件・12.5%で5地域中最も高かった。

県南地域では、家族等の援助の「ウ」が最も高く19件・27.1%であったが、全県を下回っており、5地域中3番目であった。ついで一人で外出の「イ」と利用手続きがわからないとする「オ」が同率の12件・17.1%で2番目に高かった。外出しないとする「ア」も7件・10.0%と全県を上回り、5地域中2番目に高かった。

県西地域では、家族等の援助の「ウ」が最も高く6件・26.1%であったが、全県を下回り5地域中4番目であった。ついで一人で外出の「イ」が5件・21.8%で、5地域中では一番高かった。近くに事業所がないとする「エ」や利用手続きがわからないとする「オ」は全県を下回っているが、手続きが面倒とする「カ」は2件・8.7%と全県を大きく上回り、5地域中一番高かった。

性別では、男性女性ともに家族等の援助の「ウ」が最も高く、男性40件・29.9%、女性30件・28.6%とほぼ同じ割合であったが、男性においては一人で外出の「イ」が27件・20.2%と2番目に高く、外出しない「ア」が最も低い6件・4.5%であり、女性とは対照的であったが、利用手続きがわからないとする「オ」と手続きが面倒とする「カ」が女性より高く出ており、制度の理解や利用の意欲が女性より低いことが推測できる。

女性は、外出しない「ア」が12件・11.4%、一人で外出の「イ」が15件・14.3%と男性とは対照的な数字となっているものの、近くに事業所がないとする「エ」・利用手続きがわからないとする「オ」・手続きが面倒とする「カ」は男性より低くなっている。

年齢層別では、各世代にわたって家族等の援助の「ウ」が最も高くなっているが、若年齢者層（20歳～50歳）においては「ウ」が全世代で最も低い10件・24.4%であったのに対し、一人で外出の「イ」が8件・19.5%と、全世代でも前期高齢者層（65歳～74歳）について2番目に高か

った。また、外出しない「ア」は1件・2.4%と全世代で最も低く、近くに事業所がないとする「エ」は5件・12.2%と全世代中2番目に高くなっている。

中高年齢者層（51歳～64歳）においては、家族等の援助の「ウ」が最も高い21件・27.6%で、全世代では若年齢者層に次いで2番目に低くなっているが、利用手続きがわからないとする「オ」は17件・22.4%で2番目に高く、全世代でも後期高齢者層（75歳以上）に次いで2番目に高かった。

前期高齢者層（65歳～74歳）においては家族等の援助の「ウ」が26件・32.1%と全世代で最も高く、全世代で唯一全県を上回っているが、一人で外出の「イ」が16件・19.8%、近くに事業所がないとする「エ」が10件・12.4%と、手続きが面倒だからとする「カ」が6件・7.4%であり、この3項目においても全県を上回り、全世代中で最も高くなっている。

後期高齢者層（75歳以上）においては、家族等の援助の「ウ」が16件・29.1%と最も高くなっているが、手続きがわからないとする「オ」が15件・27.3%と2番目に高く、全県を大きく上回り全世代でも最も高くなっている。また、外出しない「ア」も8件・14.6%と3番目に高く、全世代で最も高くなっている。

障害程度別では、重度（1級～2級）においては、家族等の援助の「ウ」が67件・30.2%と最も高かったが、利用手続きがわからないとする「オ」が40件・18.0%で次に高く、一人で外出の「イ」が18件・12.6%、事業所がないとする「エ」も25件・11.3%となった。

中度（3級～4級）及び軽度（5級～6級）においては、一人で外出の「イ」が、それぞれ8件・61.5%、7件・53.9%とともに過半数を超えた。

また中度においては、利用手続きがわからないとする「オ」が3件・23.1%と続いたが、軽度では家族等の援助の「ウ」が3件・23.1%と続いた。

表3-4：制度を利用しない理由

（上段：回答数、下段：構成比）

項 目	ア. 外出 はあまり しないか ら	イ. 一人 で外出で きるから	ウ. 家族 等の援助 が身近に 得られる から	エ. 近く に依頼で きる同行 介護事業 所がない から	オ. 同行 介護制度 を利用す る手続き がわから ないから	カ. 同行 介護制度 の手続き が面倒だ から	キ. その 他

全 県 (268件)		23 8.6%	46 17.2%	75 28.0%	28 10.5%	48 17.9%	15 5.6%	33件 12.3%
地 域 別	県北地域 (61件)	3 4.9%	11 18.0%	13 21.3%	7 11.5%	15 24.6%	3 4.9%	9件 14.8%
	県央地域 (83件)	6 7.2%	16 19.3%	30 36.1%	5 6.0%	11 13.3%	5 6.0%	10件 12.1%
	鹿行地域 (16件)	2 12.5%	0 0.0%	5 31.3%	4 25.0%	3 18.8%	0 0.0%	2件 12.5%
	県南地域 (70件)	7 10.0%	12 17.1%	19 27.1%	8 11.4%	12 17.1%	4 5.7%	8件 11.4%
	県西地域 (23件)	1 4.4%	5 21.8%	6 26.1%	2 8.7%	4 17.4%	2 8.7%	3件 13.0%
	地域未記入 (15件)	4 26.7%	2 13.3%	2 13.3%	2 13.3%	3 20.0%	1 6.7%	1件 6.7%
性 別	男性 (134件)	6 4.5%	27 20.2%	40 29.9%	15 11.9%	25 18.7%	7 5.2%	13件 9.7%
	女性 (105件)	12 11.4%	15 14.3%	30 28.6%	9 8.6%	17 16.2%	5 4.8%	17件 16.2%
	性別未記入 (29件)	5 17.2%	4 13.8%	5 17.2%	3 10.3%	6 20.7%	3 10.3%	3件 10.3%
年 齢 層 別	若年齢者層 (41件)	1 2.4%	8 19.5%	10 24.4%	5 12.2%	6 14.6%	2 4.9%	9件 22.0%
	中高年齢者 層(76件)	6 7.9%	13 17.1%	21 27.6%	5 6.6%	17 22.4%	5 6.6%	9件 11.8%
	前期高齢者 層(81件)	5 6.2%	16 19.8%	26 32.1%	10 12.4%	7 8.5%	6 7.4%	11件 13.6%
	後期高齢者 層(55件)	8 14.6%	7 12.7%	16 29.1%	6 10.9%	15 27.3%	1 1.8%	2件 3.6%
	年齢未記入 (15件)	3 20.0%	2 13.3%	2 13.3%	2 13.3%	3 20.0%	1 6.7%	2件 13.3%
障 害 程 度	重度(1,2) (222件)	18 8.1%	28 12.6%	67 30.2%	25 11.3%	40 18.0%	13 5.9%	31件 14.0%
	中度(3,4) (13件)	0 0.0%	8 61.5%	2 15.4%	0 0.0%	3 23.1%	0 0.0%	0件 0.0%
	軽度(5,6)	2	7	3	0	1	0	0件

別	(13件)	15.4%	53.9%	23.1%	0.0%	7.7%	0.0%	0.0%
	障害未記入 (20件)	3 15.0%	3 15.0%	3 15.0%	3 15.0%	4 20.0%	2 10.0%	2件 10.0%

3) 利用度と認知度との関係

同行援護制度の利用状況と制度の認知状況との関係をみると、利用度が高ければ、制度の認知度も高くなっており、「よく利用している」者では、制度の認知度が70件・97.2%（「よく知っている」45件・62.5%＋「ある程度知っている」25件・34.7%）と非常に高くなっており、「たまに利用している」者においても38件・84.4%、また、「過去に利用したことがある」者では16件・94.1%と、同行援護サービスに利用経験のある者が高率になっている。

その一方、「今まで利用したことがない」者の認知度は59件・36.2%で、利用経験者とは対照的に低い数字であり、制度の利用経験と認知度には強い関係性がうかがえる。

表3-5：同行援護制度の利用状況と認知状況の関係

（上段：回答数、下段：構成比）

項 目	ア. よく 知って いる	イ. ある 程度知 っている	ア＋イ の小計	ウ. 詳し く知ら ない	エ. ま ったく 知らない	ウ＋エ の小計	未記入	合 計
よく利用してい る	45 62.5%	25 34.7%	70 97.2%	2 2.8%	0 0.0%	2 2.8%	0 0.0%	72件 100%
たまに利用して いる	21 46.7%	17 37.8%	38 84.4%	6 13.3%	1 2.2%	7 15.6%	0 0.0%	45件 100%
過去に利用した ことがある	6 35.3%	10 58.9%	16 94.1%	1 5.9%	0 0.0%	1 5.9%	0 0.0%	17件 100%
今まで利用した ことがない	13 8.0%	46 28.2%	59 36.2%	51 31.3%	52 31.9%	103 63.2%	1 0.6%	163件 100%
利用状況未記入	1 10.0%	1 10.0%	2 20.0%	1 10.0%	7 70.0%	8 80.0%	0 0.0%	10件 100%
合 計（全県）	86 28.0%	99 32.2%	185 60.3%	61 19.9%	60 19.5%	121 39.4%	1 0.3%	307件 100%

4) 支給決定量と実利用時間

1月当たりの支給決定量と実利用時間数を聞いたところ、支給決定量の全県は30.2時間に対し、実利用時間数は15.3時間で、支給決定量のうちどの程度の割合で実際に同行援護サービスを利用したか（実利用時間数）をみる使用率は50.7%となった。支給決定を受けても実際にはその半分程度しか使用されていないことになる。

地域別にみると、支給決定量では県北地域が33.5時間と全県を上回っているが、その他の4地域は、県西地域30.0時間、県央地域29.0時間、県南地域28.3時間、鹿行地域25.3%と全県を下回った。

しかし、実利用時間においては、県央地域が17.4時間、鹿行地域が17.2時間と全県を上回り、他の3地域は県西地域14.5時間、県北地域14.3時間、県南地域11.9時間と全県を下回った。

使用率においては、支給決定量が最も少なくとも実利用時間数の2番目に多かった鹿行地域が68.0%で最も高く、同傾向の県央地域が60.0%で全県を上回ったのに対し、他の3地域は、県西地域が48.3%、県北地域が42.7%、県南地域が42.0%と50%を切り、全県を下回った。

使用率の低さについては、支給決定を受けても同行援護従業者を派遣してくれる事業所がないという意見が寄せられていることなどから、同行援護サービスの供給体制に課題のあることが推測できる。

性別でみると、男性の方が支給決定量においても実利用時間においても女性より約30%多くなっているが、使用率においてはほとんど変わりがなくなっている。

年齢層別にみると、若年齢者層（20歳～50歳）が支給決定量36.7時間・実利用時間23.8時間と最も高く、年齢を経るにしたがって減少する傾向にあり、75歳以上の後期高齢者層では支給決定量が26.4時間・実利用時間11.7時間と、若年齢者層に比較して支給決定量で約30%、実利用時間にして約50%と大幅に減少しており、世代的な生活活動量を反映しているものと考えられる。

表3-6：1月当たりの支給決定量と実利用時間

項目		支給決定量 (A)	実利用時間 (B)	使用率 B/A
全県時間		30.2 時間	15.3 時間	50.7%
地 域	県北地域	33.5	14.3	42.7
	県央地域	29.0	17.4	60.0
	鹿行地域	25.3	17.2	68.0

別	県南地域	28.3	11.9	42.0
	県西地域	30.0	14.5	48.3
	未記入	40.8	30.3	74.3
性別	男性	33.5	16.4	49.0
	女性	25.6	12.6	49.2
	未記入	36.6	23.4	63.9
年齢層別	若年齢者層	36.7	23.8	64.9
	中高年齢者層	30.2	14.1	46.7
	前期高齢者層	27.7	14.4	52.0
	後期高齢者層	26.4	11.7	44.3
	未記入	54.0	39.0	72.2

※ 障害程度別は中度（３級～４級）及び軽度（５級～６級）のサンプル数が１件程度のため、割愛した。

５）同行援護の利用目的

同行援護の利用目的を聞いたところ、１位が「通院」の８３件・２３．３％、２位は僅差で「買い物」の８２件・２３．０％と、この２つが抜きん出て１位と２位を占めた。３位は「行事」の３７件・１０．４％で１位と２位の半分にも及ばなかった。以下、４位は「散歩」３１件・８．７％、「趣味」２５件・７．０％と続いており、日常生活に必要不可欠ともいえる活動項目が上位に来ている。

その他においても、郵便局や銀行、市役所、理髪店など、暮らし向きに密着した項目が挙げられている。

これら利用目的の傾向は、多少の違いはあっても地域別でも性別でも年齢層別でも同様の傾向を示しており、趣味やスポーツ、文化活動などの「社会参加」への広がり是不够限られたものとなって。

表３－７：同行援護の利用目的（複数回答）（上段：回答数、下段：構成比）

項目		通院	会議	行事	買い物	趣味	スポーツ	スポーツ鑑賞
全 県 (357件)		83 23.3%	22 6.2%	37 10.4%	82 23.0%	25 7.0%	11 3.1%	3件 0.8%
地	県北地域 (88件)	16 20.5%	4 4.6%	7 8.0%	23 26.1%	5 5.7%	4 4.6%	2件 2.3%
	県央地域	21	8	11	16	4	4	1件

域別	(90 件)	23.3%	8.9%	12.2%	17.8%	4.4%	4.4%	1.1%
	鹿行地域 (36 件)	8 22.2%	2 5.6%	5 13.9%	10 27.8%	3 8.3%	1 2.8%	0件 0.0%
	県南地域 (89 件)	25 28.1%	6 6.8%	7 7.9%	20 22.5%	8 9.0%	1 1.1%	0件 0.0%
	県西地域 (32 件)	7 21.9%	1 3.1%	4 12.5%	8 25.0%	3 9.4%	1 3.1%	0件 0.0%
	地域未記入 (22 件)	4 18.2%	1 4.6%	3 13.6%	5 22.7%	2 9.1%	0 0.0%	0件 0.0%
性別	男性 (201 件)	40 19.9%	13 6.5%	23 11.4%	43 21.4%	14 7.0%	7 3.5%	3 1.5%
	女性 (123 件)	35 28.5%	7 5.7%	11 8.9%	32 26.0%	8 6.5%	4 3.3%	0件 0.0%
	性別未記入 (33 件)	8 24.2%	2 6.1%	3 9.1%	7 21.2%	3 9.1%	0 0.0%	0件 0.0%
年齢層別	若年齢者層 (35 件)	9 25.7%	1 2.9%	3 8.6%	8 22.9%	3 8.6%	1 2.9%	0件 0.0%
	中高年齢者 層(122 件)	27 22.1%	6 4.9%	13 10.7%	28 23.0%	11 9.0%	5 4.1%	2件 1.6%
	前期高齢者 層(121 件)	28 23.1%	10 8.3%	12 9.9%	28 23.1%	7 5.8%	4 3.3%	1件 0.8%
	後期高齢者 層(59 件)	16 27.1%	4 6.8%	6 10.2%	14 23.7%	2 3.4%	1 1.7%	0件 0.0%
	年齢未記入 (20 件)	3 15.0%	1 5.0%	3 15.0%	4 20.0%	2 10.0%	0 0.0%	0件 0.0%

項目		散歩	映画鑑賞	コンサート	冠婚葬祭	レジャー	旅行	その他.
全 県		31 8.7%	3 0.8%	9 2.5%	15 4.2%	9 2.5%	7 2.0%	20件 5.6%
地	県北地域	5 5.7%	3 3.4%	3 3.4%	1 1.1%	5 5.7%	4 4.6%	4件 4.6%
	県央地域	11 12.2%	0 0.0%	1 1.1%	4 4.4%	1 1.1%	1 1.1%	7件 7.8%
	鹿行地域	3	0	0	3	0	0	1件

域別		8.3%	0.0%	0.0%	8.3%	0.0%	0.0%	2.8%
	県南地域	9 10.1%	0 0.0%	1 1.1%	4 4.5%	2 2.3%	1 1.1%	5件 5.6%
	県西地域	1 3.1%	0 0.0%	3 9.4 %	1 3.1%	1 3.1%	1 3.1%	1件 3.1%
	性別未記入	2 9.1%	0 0.0%	1 4.6%	2 9.1%	0 0.0%	0 0.0%	2件 9.1%
性別	男性	19 9.5%	2 1.0%	5 2.5%	7 3.5%	7 3.5%	6 3.0%	12件 6.0%
	女性	9 7.3%	1 0.8%	2 1.6%	5 4.1%	2 1.6%	1 0.8%	6件 4.9%
	性別未記入	3 9.1%	0 0.0%	2 6.1%	3 9.1%	0 0.0%	0 0.0%	2件 6.1%
年齢別	若年齢者層	6 17.7%	2 5.7%	0 0.0%	0 0.0%	2 5.7%	0 0.0%	0件 0.0%
	中高年齢者層	5 4.1%	1 0.8%	5 4.1%	5 4.1%	3 2.5%	3 2.5%	8件 6.6%
	前期高齢者層	12 9.9%	0 0.0%	2 1.7%	6 5.0%	2 1.7%	2 1.7%	7件 5.8%
	後期高齢者層	6 10.2%	0 0.0%	1 1.7%	2 3.4%	2 3.4%	2 3.4%	3件 5.1%
	年齢未記入	2 10.0%	0 0.0%	1 5.0%	2 10.0%	0 0.0%	0 0.0%	2件 10.0%

※ 障害程度別は中度（3級～4級）及び軽度（5級～6級）のサンプル数が1件程度のため、割愛した。

6) 同行援護サービスの満足度

① 同行援護従業者の評価

同行援護従業者の対応についてたずねたところ、全県では「ア. 大いに満足している」42件・34.4%、「イ. おおむね満足している」43件・35.3%で、あわせて8割（85件・79.7%）の者が満足感を示している。「ウ. ふつう」と感じている者は27件・22.1%で、対応に不満を感じている者は「エ. どちらかといえば不満である」8件・6.7%、「オ. 大いに不満である」2件・1.6%で、1割未満（8.3%）であり、満足している者に比してごく少数であった

地域別にみていくと、県北地域は満足感が13件・44.8%と5地域

で最も低く、普通と感じている者の割合が全県の2倍近い12件・41.4%もあり、不満感も4件・13.8%と一番高かった。

県央地域は満足感が23件・74.2%で5地域中4番目だったが、「ア。」は5地域中で最も高い15件・48.4%であった。残りの者は普通と感じており、不満感は何れもゼロであった。

鹿行地域は満足感が11件・91.7%と5地域中最も高かったが、残りの者は「オ。」1件・8.3%であり、これも5地域中で最も高かった。

県南地域は満足感が24件・75.0%で5地域中3番目であり、不満感は何れも4件・12.5%で鹿行地域に次いで2番目に高かった。

県西地域は満足感が11件・84.7%と5地域中2番目に高かったが、「ア。」も6件・46.2%と5地域中2番目に高かった。残りの者は普通と感じており、不満感は何れもゼロであった。

以上から、満足感が高い県央地域と県西地域、高い満足感と強い不満感しかない鹿行地域、満足感はある程度高いが不満感も強い県南地域、そして極端に満足感が低く、不満感が強い県北地域という4パターンに分かれる。

性別では、満足感も不満感も似たようなパターンであり、性的な特段の差は見られないが、強いてあげれば、男性は「ア。」よりも「イ。」のほうが多く、女性では逆に「ア。」のほうが多くなっている。

年齢層別では、年齢層が上がるにしたがって満足感が高くなる傾向にあり、若年齢者層（20歳～50歳）では6件・54.6%であった満足感が後期高齢者層（75歳以上）では21件・84.0%に上がっている。

その逆パターンは「ウ. ふつう」で、若年齢者層の4件・36.4%が後期高齢者層では3件・12.0%にまで低下している。

不満感については年齢が若いほど「オ. 大いに不満である」の割合が高くなっているが、年齢を経るにしたがって「エ. どちらかといえば不満である」に切り替わり、割合自体も低くなっている。

表3-8：同行援護従業者に対する満足度（上段：回答数、下段：構成比）

項目	ア. 大いに満足している	イ. おおむね満足している	ア + イ の合計	ウ. ふつう	エ. どちらかといえば不満である	オ. 大いに不満である	エ + オの 合計
全 県 (122件)	42 34.4%	43 35.3%	85 79.7%	27 22.1%	8 6.7%	2 1.6%	10件 8.3%
県北地域	6	7	13	12	4	0	4件

地域別	(29 件)	20.7%	24.1%	44.8%	41.4%	13.8%	0.0%	13.8%
	県央地域 (31 件)	15 48.4%	8 25.8%	23 74.2%	8 25.8%	0 0.0%	0 0.0%	0件 0.0%
	鹿行地域 (12 件)	5 41.7%	6 50.0%	11 91.7%	0 0.0%	0 0.0%	1 8.3%	1件 8.3%
	県南地域 (39 件)	10 31.3%	14 43.7%	24 75.0%	4 12.5%	3 9.4%	1 3.1%	4件 12.5%
	県西地域 (13 件)	6 46.2%	5 38.5%	11 84.7%	2 15.4%	0 0.0%	0 0.0%	0件 0.0%
	地域未記入 (5 件)	0 0.0%	3 60.0%	3 60.0%	1 20.0%	1 20.0%	0 0.0%	1件 20.0%
性別	男性 (65 件)	20 30.8%	25 38.5%	45 69.3%	15 23.1%	4 6.2%	1 1.5%	5件 7.7%
	女性 (48 件)	20 41.7%	14 29.2%	34 70.9%	10 20.8%	3 6.3%	1 2.1%	4件 8.4%
	性別未記入 (9 件)	2 22.2%	4 44.4%	6 66.7%	2 22.2%	1 11.1%	0 0.0%	1件 11.1%
年齢層別	若年齢者層 (11 件)	4 36.4%	2 18.2%	6 54.6%	4 36.4%	0 0.0%	1 9.1%	1件 9.1%
	中高年齢者 層(40 件)	17 42.5%	9 22.5%	26 65.0%	11 27.5%	2 5.0%	1 2.5%	3件 7.5%
	前期高齢者 層(42 件)	11 26.2%	18 42.9%	29 69.1%	8 19.1%	5 11.9%	0 0.0%	5件 11.9%
	後期高齢者 層(25 件)	10 40.0%	11 44.0%	21 84.0%	3 12.0%	1 4.0%	0 0.0%	1件 4.0%
	年齢未記入 (4 件)	0 0.0%	3 75.0%	3 75.0%	1 25.0%	0 0.0%	0 0.0%	0件 0.0%

※ 障害程度別は中度（3級～4級）及び軽度（5級～6級）のサンプル数が1件程度のため、割愛した。

② 同行援護利用の充足感

同行援護制度を思ったように利用できているかどうか尋ねたところ、ほぼ充足感（利用できている）を持っている者は3分の2にあたる91件・67.4%（「ア. 十分利用している」25件・18.5%+「イ. おおむね利用している」56件・41.5%+「ウ. 過不足なく利用できている」10件・7.4%）であったのに対し、不満感（利用できていな

い) を持つ者は3分の1にあたる44件・32.6%（「エ. 少し利用が足りない」24件・17.8%+「オ. まったく利用できていない」20件・14.8%）であった。

地域別にみていくと、最も充足感のあるのは県西地域で11件・78.5%、ついで県央地域が26件・76.4%、鹿行地域が9件・75.0%と全県を上回った。

一方、県南地域は充足感が22件・56.4%と最も低く、不満感は17件・43.6%で全県を大幅に上回った。

県北地域は充足感が21件・65.7%と全県を下回り、不満感が11件・34.4%で全県を上回っており、不満感が強くなっている。

これらを「表3-6：1月当たりの支給決定量と実利用時間」における使用率でみていくと、県西地域を除けば、鹿行地域が68.0%、県央地域が60.0%と高く、県南地域が42.0%、県北地域が42.7%と低くなっており、支給決定量の使用率との関係を伺わせるものがある。

性別においては、男性の充足感が51件・70.8%と女性の35件・63.7%より高く出ており、不満感は男性の21件・29.2%より女性が20件・36.4%と強く出ている。

年齢層別では、中高年齢者層（51歳～64歳）で充足感が33件・76.8%と最も高く出ているが、他の年齢層は全県の67.4%より低くなっている。

一方、不満感の強いのは前期高齢者層（65歳～74歳）の18件・40.0%、若年齢者層（20歳～50歳）の5件・35.7%で、いずれも全県を上回る割合 となっている。

後期高齢者層（75歳以上）においては、充足感及び不満感の割合はほぼ全県並みであるが、不満感の方が10件・33.3%と若干強く出ている。

表3-9：同行援護利用の充足感

（上段：回答数、下段：構成比）

項 目	ア. 十分に利用している	イ. おおむね利用している	ウ. 過不足なく利用できている	ア+イ+ウの小計	エ. 少し利用が足りない	オ. まったく利用できていない	エ+オの小計
全 県 (135 件)	25 18.5%	56 41.5%	10 7.4%	91 67.4%	24 17.8%	20 14.8%	44件 32.6%

地域別	県北地域 (32 件)	7 21.9%	12 37.5%	2 6.3%	21 65.7%	8 25.0%	3 9.4%	11件 34.4%
	県央地域 (34 件)	10 29.4%	15 44.1%	1 2.9%	26 76.4%	3 8.8%	5 14.7%	8件 23.5%
	鹿行地域 (12 件)	4 33.3%	5 41.7%	0 0.0%	9 75.0%	1 8.3%	2 16.7%	3件 25.0%
	県南地域 (39 件)	3 7.7%	14 35.9%	5 12.8%	22 56.4%	8 20.5%	9 23.1%	17件 43.6%
	県西地域 (14 件)	1 7.1%	9 64.3%	1 7.1%	11 78.5%	2 14.3%	1 7.1%	3件 21.4%
	地域未記入 (4 件)	0 0.0%	1 25.0%	1 25.0%	2 50.0%	2 50.0%	0 0.0%	2件 50.0%
性別	男性 (72 件)	14 19.4%	31 43.1%	6 8.3%	51 70.8%	11 15.3%	10 13.9%	21件 29.2%
	女性 (55 件)	11 20.0%	21 38.2%	3 5.5%	35 63.7%	10 18.2%	10 18.2%	20件 36.4%
	性別未記入 (8 件)	0 0.0%	4 50.0%	1 12.5%	5 62.5%	3 37.5%	0 0.0%	3件 37.5%
年齢層別	若年齢者層 (14 件)	3 21.4%	2 14.3%	4 28.6%	9 64.3	1 7.1%	4 28.6%	5件 35.7%
	中高年齢者層 (43 件)	11 25.6%	22 51.2%	0 0.0%	33 76.8%	7 16.3%	3 7.0%	10件 23.3%
	前期高齢者層 (45 件)	7 15.6%	17 37.8%	3 6.7%	27 60.1%	12 26.7%	6 13.3%	18件 40.0%
	後期高齢者層 (30 件)	4 13.3%	14 46.7%	2 6.7%	20 66.7%	3 10.0%	7 23.3%	10件 33.3%
	年齢未記入 (3 件)	0 0.0%	1 33.3%	1 33.3%	2 66.7%	1 33.3%	0 0.0%	1件 33.3%

※ 障害程度別は中度（3級～4級）及び軽度（5級～6級）のサンプル数が1件程度のため、割愛した。

③ 同行援護利用の不満感の理由

同行援護利用の充足感の調査において、「エ. 少し利用がたりない」または「オ. まったく利用できていない」と回答した者に、その要因を尋ねたところ、「ア. 事業所数が足りない」が30件・32.6%で最も高く、次いで「エ. 公共交通機関以外の利用ができない」が21件・22.8%、「ウ.

計画通りに利用できない」が19件・20.7%、「オ. 宿泊等長時間の利用ができない」が13件・14.1%で、「イ. 従業員の技術・技能が低い」は9件・9.8%で最も低かった。

地域別では、県北地域は全県とほぼ同様の傾向で、事業所数の「ア」が9件・32.1%で最も高くなっているが、公共交通機関の「エ」と計画通りの「ウ」はそれぞれ全県より低い6件・21.4%、5件・17.9%であったのに対し、従業員の「イ」は全県より高い4件・14.3%であった。

県央地域では、事業所数の「ア」が全県を大きく上回る6件・46.2%で5地域中でも最も高かった。計画通りの「ウ」も公共交通機関の「エ」もともに2件・15.4%、また宿泊等の長時間の「オ」が1件・7.7%と全県より低くなっているが、従業員の「イ」が2件・15.4%と全県より大幅に高く、5地域中で最も高かった。

鹿行地域では、計画通りの「ウ」が2件・50.0%、宿泊等長時間の「オ」が1件・25.0%と全県を上回り、5地域中で最も高かったが、事業所数の「ア」は1件・25.0%と全県を下回った。

県南地域では、事業所数の「ア」が13件・34.2%で最も高く、次いで公共交通機関の「エ」が9件・23.7%となったが、ともに全県を上回った。計画通りの「ウ」7件・18.4%で、全県を下回る一方、宿泊等長時間の「オ」が6件・15.8%で全県を上回った。従業員の「イ」は3件・7.9%で全県を下回った。

県西地域では、計画通りの「ウ」と公共交通機関の「エ」がともに3件・37.5%で全県を上回ったが、公共交通機関の「エ」は5地域中で最も高かった。事業所数の「ア」と宿泊等長時間の「オ」がともに1件・12.5%となり、全県を下回った。従業員の「イ」は0.0%であった。

性別でみると、男性では、事業所数の「ア」が16件・34.0%で最も高く、次いで計画通りの「ウ」が10件・21.3%、公共交通機関の「エ」が9件・19.2%、宿泊等長時間の「オ」が7件・14.9%、従業員の「イ」が5件・10.6%となった。公共交通機関の「エ」以外は全県を上回った。

女性では、事業所数の「ア」が14件・34.2%で最も高く、次いで公共交通機関の「エ」が10件・24.4%、計画通りの「ウ」が8件・19.5%、宿泊等長時間の「オ」が5件・12.2%、従業員の「イ」が4件・9.8%となった。事業所数の「ア」と交通機関の「エ」で全県を上回り、計画通りの「ウ」と宿泊等長時間の「オ」で全県を下回った。

事業所数の「ア」は男性女性ともに不満感が出ているが、男性では比較的従業員の「イ」や計画通りの「ウ」、宿泊等長時間の「オ」に不満感が滲みだしているのに対し、女性では交通機関の「エ」に強い不満感が出ている。

年齢層別にみると、若年齢者層（２０歳～５０歳）では、事業所数の「ア」が４件・５７．１％と圧倒的に高く、計画通りの「ウ」も２件・２８．６％で、ともに全県を上回った。公共交通機関の「エ」は１件・１４．３％で全県を下回り、従業員の「イ」と宿泊等長時間の「オ」はともに０．０％であった。

中高年齢者層（５１歳～６４歳）では、事業所数の「ア」が８件・２９．６％で最も高かったが、全県は下回った。次いで公共交通機関の「エ」が７件・２５．９％、計画通りの「ウ」が６件・２２．２％で、宿泊等長時間の「オ」が５件・１８．５％で、これらは全県を上回った。従業員の「イ」は３．７％で全県を大幅に下回った。

前期高齢者層（６５歳～７４歳）では、事業所数の「ア」が１０件・２７．０％で最も高く、次いで公共交通機関の「エ」が８件・２１．６％、計画通りの「ウ」が７件・１８．９％となるが、ともに全県を下回っている。従業員の「イ」と宿泊等長時間の「オ」がともに全県を上回る６件・１６．２％であったが、従業員の「イ」は全県を大幅に上回る数字で、全世代でも特に高く、不満感が強く出ている。

後期高齢者層（７５歳以上）では、事業所数の「ア」が８件・３８．１％で最も高く、次いで公共交通機関の「エ」が５件・２３．８％となったが、ともに全県を上回った。計画通りの「ウ」が４件・１９．１％、従業員の「イ」と宿泊等長時間の「オ」がともに２件・９．５％となり、これらすべてで全県を下回った。

表３－１０：不満感の理由（複数回答）（上段：回答数、下段：構成比）

項 目		ア．事業所の数が足りない	イ．従業員の技術・技能が低い	ウ．計画通りに利用できない（日時・利用時間・利用内容等）	エ．公共交通機関以外の利用ができない	オ．宿泊等長時間の利用ができない
全 県 (92件)		30 32.6%	9 9.8%	19 20.7%	21 22.8%	13件 14.1%
県北地域 (28件)		9 32.1%	4 14.3%	5 17.9%	6 21.4%	4件 14.3%

地域別	県央地域 (13 件)	6 46.2%	2 15.4%	2 15.4%	2 15.4%	1 件 7.7%
	鹿行地域 (4 件)	1 25.0%	0 0.0%	2 50.0%	0 0.0%	1 件 25.0%
	県南地域 (38 件)	13 34.2%	3 7.9%	7 18.4%	9 23.7%	6 件 15.8%
	県西地域 (8 件)	1 12.5%	0 0.0%	3 37.5%	3 37.5%	1 件 12.5%
	地域未記入 (1 件)	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 件 0.0%
性別別	男性 (47 件)	16 34.0%	5 10.6%	10 21.3%	9 19.2%	7 件 14.9%
	女性 (41 件)	14 34.2%	4 9.8%	8 19.5%	10 24.4%	5 件 12.2%
	性別未記入 (4 件)	0 0.0%	0 0.0%	1 25.0%	2 50.0%	1 件 25.0%
年齢別	若年齢者層 (7 件)	4 57.1%	0 0.0%	2 28.6%	1 14.3%	0 件 0.0%
	中高年齢者 層(27 件)	8 29.6%	1 3.7%	6 22.2%	7 25.9%	5 件 18.5%
	前期高齢者 層(37 件)	10 27.0%	6 16.2%	7 18.9%	8 21.6%	6 件 16.2%
	後期高齢者 層(21 件)	8 38.1%	2 9.5%	4 19.1%	5 23.8%	2 件 9.5%
	年齢未記入 (0 件)	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 件 0.0%

※ 障害程度別は中度（３級～４級）及び軽度（５級～６級）のサンプル数が１件程度のため、割愛した。

４．同行援護サービスの利用意向

今後、同行援護サービスを利用するかどうか、利用の動向を尋ねたところ、回答者の１３５件・４２．９％（「ア．ぜひ利用したい」６８件・２１・６％＋「イ．条件があれば利用したい」６７件・２１．３％）が積極的な強い利用意向を示した。これに将来的には利用したいとする「ウ．今は利用しないが将来的には利用したいと思う」の９０件・２８．６％を加えると、２２５件・７

1. 5%が、積極的に、または将来的に同行援護サービスを利用したいという意向を持っている。

これに対して、「エ. 今後も利用しない」とした者は回答者の19件・6.0%に過ぎず、同行援護サービスに対する利用の意向は強いといえる。

地域別的には、最も利用意向の強いのが県西地域で利用意向は23件・79.3%（「ア」＋「イ」＋「ウ」）に上った。特にぜひ利用の「ア」は10件・34.5%と5地域中で最も高く、しかも今後も利用しないの「エ」は0.0%であった。

次いで強かったのは県央地域で、その利用意向は70件・73.7%と7割を超えたが、ぜひ利用の「ア」が15件・15.8%と5地域中で最も低く、条件があれば利用の「イ」が22件・23.2%と5地域中で最も高いものの、「ア」と「イ」を合わせた積極的な利用は37件・39.0%と5地域中最も低かった。その一方で将来的に利用の「ウ」が33件・34.7%と5地域中で最も高く、しかも、今後も利用しないの「エ」も8件・8.4%と5地域中で最も高かった。

5地域中3番目に強かったのは、県南地域で、その利用意向は60件・69.0%で全県の71.5%を下回った。しかし、ぜひ利用の「ア」と将来的に利用の「イ」を加えると積極的な利用は38件・43.7%となり、全県を上回った。なお、今後も利用しないの「エ」は6件・6.9%で5地域中2番目に高かった。

5地域中4番目に強かったのは、鹿行地域で、その利用意欲は17件・68.0%であった。しかし、ぜひ利用の「ア」は7件・28.0%と5地域中2番目に高く、「ア」に「イ」を加えた積極的な利用は12件・48.0%であり、県西地域に次いで高かった。また、今後も利用しないの「エ」は0.0%であった。

5地域中最低だったのは県北地域であり、その利用意欲は43件・67.2%であった。ぜひ利用の「ア」は14件・21.9%で全県を上回ったものの、条件があれば利用の「イ」は11件・17.2%で5地域中最低だった。また、将来的に利用の「ウ」は18件・28.1%で5地域中2番目に高く、今後も利用しないの「エ」も全県を上回る4件・6.3%であった。

性別でみると、女性の方が男性よりも強い利用意向を持っており、男性が112件・66.6%（「ア」＋「イ」＋「ウ」）であったのに対し、女性は10ポイントほど上回る90件・76.3%であった。ぜひ利用の「ア」でも条件があれば利用の「イ」でも、将来的に利用の「ウ」においてもいずれも女性の

ポイントが高かった。これに反し、男性は今後も利用しないの「エ」が16件・9.5%で、女性の2件・1.7%に比して高率であった。

年齢層別にみると、若年齢者層（20歳～50歳）は、ぜひ利用の「ア」・7件・16.3%と将来的に利用の「ウ」10件・23.3%がともに世代間で最低だったものの、条件があれば利用の「イ」が14件・32.6%と世代間で最も高くなったため、利用意向は31件・72.2%と全県を上回った。しかし、今後も利用しないの「エ」も3件・7.0%で全県を上回っている。

中高年齢者層（51歳～64歳）は、ぜひ利用の「ア」が22件・25.0%、将来的に利用の「ウ」が28件・31.8%とともに世代間で最も高くなったため、利用意欲も65件・73.9%と世代間で最高となり、今後も利用しないの「エ」は4件・4.6%で全県を下回った。しかし、条件があれば利用の「イ」は15件・17.1%世代間で最低だった。

前期高齢者層（65歳～70歳）は、ぜひ利用の「ア」が20件・19.8%、条件があれば利用の「イ」が19件・18.8%で、積極的利用の意向が39件・38.6%と全世代で最も低くなったため、将来的に利用の「ウ」が31件・30.7%と全県を上回ったものの、全体の利用意向では70件・69.3%と世代間で最も低くなった。また、今後も利用しないの「エ」は9件・8.9%と世代間で最も高かった。

後期高齢者層（75歳以上）は、ぜひ利用の「ア」が15件・22.1%、条件があれば利用の「イ」が16件・23.5%と全県を上回り、積極的利用の意向は31件・45.6%と若年齢者層に次いで2番目に高かったが、将来的に利用の「ウ」が17件・25.0%と全県を下回ったため、全体の利用意向は48件・70.6%と世代間で2番目に低かった。しかし、今後も利用しないの「エ」は2件・2.9%と世代間で最も低くなった。

障害程度別では、重度障害（1級～2級）は、ぜひ利用の「ア」が63件・22.9%で、条件があれば利用の「イ」が64件・23.3%と、ともに全県を超えたため、積極的利用は127件・46.2%と全県を上回った。全体の利用意向は、将来的に利用の「ウ」が72件・26.2%と低かったものの、合計で199件・72.4%と全県をやや上回った。今後も利用しないの「エ」は11件・4.0%で全県より低くなった。

中度障害（3級～4級）及び軽度障害（5級～6級）においては、中度障害においてぜひ利用の「ア」が1件・9.1%あるものの、将来的に利用の「ウ」がともに6件・54.6%となっており、直近に利用しようという積極的な意向はきわめて弱いものとなっている。また、今後も利用しないの「エ」も全県

を大きく上回っている。

表４－１：同行援護サービスの利用意向①

（上段：回答数、下段：構成比）

項 目		ア. ぜひ 利用し たい	イ. 条件 があえ ば利用 したい	ア＋イ	ウ. 今は 利用し ないが 将来的 に利用 したい と思う	ア＋イ ＋ウ	エ. 今後 も利用 しない	オ. 未記 入
全 県 (315件)		68 21.6%	67 21.3%	135 42.9%	90 28.6%	225 71.5%	19 6.0%	71件 22.5%
地 域 別	県北地域 (64件)	14 21.9%	11 17.2%	25 39.1%	18 28.1%	43 67.2%	4 6.3%	17件 26.6%
	県央地域 (95件)	15 15.8%	22 23.2%	37 39.0%	33 34.7%	70 73.7%	8 8.4%	17件 17.9%
	鹿行地域 (25件)	7 28.0%	5 20.0%	12 48.0%	5 20.0%	17 68.0%	0 0.0%	8件 32.0%
	県南地域 (87件)	18 20.7%	20 23.0%	38 43.7%	22 25.3%	60 69.0%	6 6.9%	21件 24.1%
	県西地域 (29件)	10 34.5%	5 17.2%	15 51.7%	8 27.6%	23 79.3%	0 0.0%	6件 20.7%
	地域未記入 (15件)	4 26.7%	4 26.7%	8 53.4%	4 26.7%	12 80.1%	1 6.7%	2件 13.3%
性 別	男性 (168件)	35 20.8%	33 19.6%	68 40.4%	44 26.2%	112 66.6%	16 9.5%	40件 23.8%
	女性 (118件)	25 21.2%	28 23.7%	53 44.9%	37 31.4%	90 76.3%	2 1.7%	26件 22.0%
	性別未記入 (29件)	8 27.6%	6 20.7%	14 48.3%	9 31.0%	23 79.3%	1 3.5%	5件 17.2%
年 齢	若年齢者層 (43件)	7 16.3%	14 32.6%	21 48.9%	10 23.3%	31 72.2%	3 7.0%	9件 20.9%
	中高年齢者 層(88件)	22 25.0%	15 17.1%	37 42.1%	28 31.8%	65 73.9%	4 4.6%	19件 21.6%
	前期高齢者 層(101件)	20 19.8%	19 18.8%	39 38.6%	31 30.7%	70 69.3%	9 8.9%	22件 21.8%

層別	後期高齢者層(68件)	15 22.1%	16 23.5%	31 45.6%	17 25.0%	48 70.6%	2 2.9%	18件 26.5%
	年齢未記入(15件)	4 26.7%	3 20.0%	7 46.4%	4 26.7%	11 73.4%	1 6.7%	3件 20.0%
障害程度別	重度(1,2)(275件)	63 22.9%	64 23.3%	127 46.2%	72 26.2%	199 72.4%	11 4.0%	65件 23.6%
	中度(3,4)(11件)	1 9.1%	0 0.0%	1 9.1%	6 54.6%	7 63.7%	3 27.3%	1件 9.1%
	軽度(5,6)(11件)	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	6 54.6%	6 54.6%	4 36.4%	1件 9.1%
	障害未記入(18件)	4 22.2%	3 16.7%	7 38.9%	6 33.3%	13 72.2%	1 5.6%	4件 22.2%

1) 同行援護サービスの利用度との関係、

同行援護サービスの利用意向を利用度の関係でみていくと、よく利用の「A」では、ぜひ利用したいの「ア」が33件・45.8%ともっと高く、条件があれば利用の「イ」は3件・4.2%で、「ア」＋「イ」の積極的な利用意向が36件・50.0%を占めており、将来的利用の「ウ」も今後も利用しないの「エ」も0件・0.0%であった。

たまに利用の「B」では、ぜひ利用の「ア」が19件・41.3%と最も高く、条件があれば利用の「イ」の6件・13.0%を加えると、積極的な利用意向は25件・54.3%で過半数を超えた。これに将来的に利用の「ウ」を加えると、全体の利用意向は26件・56.5%になった。今後も利用しないの「エ」は0件・0.0%であった。

過去に利用の「C」では、条件があれば利用の「イ」が10件・58.8%と最も高く、ぜひ利用の「ア」の3件・17.7%を加えると、積極的な利用意向は13件・76.5%と、利用度類型のなかでは最も高くなった。将来的に利用の「ウ」は4件・23.5%であり、全体の利用意向は17件・100.0%とすべて者が持っていることになった。

今まで利用したことのない「D」では、将来的に利用の「ウ」が84件・49.4%と最も高く、これに条件があれば利用の「イ」が48件・28.2%、ぜひ利用の「ア」が13件・7.7%を加えた全体の利用意向は145件・85.3%となった。今後も利用しないの「エ」は19件・11.2%であった。

「ア、ぜひ利用したい」では、利用度が高ければ高いほど強い利用意欲を

示しており、よく利用の〔A〕において33件・45.8%、たまに利用の〔B〕において19件・41.3%、過去に利用の〔C〕において3件・17.7%。今まで利用してことがない〔D〕において13件・7.7%が、「ア. ぜひ利用したい」と答えており、利用意向は利用度に比例しているといえる。

また、「イ. 条件があれば利用したい」では、過去に利用の〔C〕が最も高く10件・58.8%となった。現在利用していないのは条件が合わないためともいえ、条件次第では同行援護サービスを利用する可能性が高いといえる。さらに今まで利用したことがない〔D〕においても48件・28.2%となっており、これも条件さえ整えば同行援護サービスを利用する可能性が高いものと推測できる。

「ウ. 今は利用しないが将来的に利用したいと思う」では、今まで利用したことがない〔D〕が84件・49.4%で最も高く、未利用者の半数程度には、将来的な利用を期待できるものと考えられる。

逆に、「エ. 今後も利用しない」は、今まで利用したことがない〔D〕において19件・11.2%があるのみで、利用経験のある層では0.0%となっており、利用したことがあれば再利用したいという意欲は強く、全体的にみて同行援護サービスの利用意向は強いものといえる。

表4-2：同行援護サービスの利用意向①（利用度）

（上段：回答数、下段：構成比）

項 目	ア. ぜひ 利用 したい	イ. 条件 があ え ば 利 用 したい	ア+イ	ウ. 今は 利用 し ないが 将 来 的 に 利 用 し たい と思う	ア + イ + ウ	エ. 今後 も 利 用 し ない	オ. 未記 入
A.よく利用している (72 件)	33 45.8%	3 4.2%	36 50.0%	0 0.0%	36 50.0%	0 0.0%	36件 50.0%
B.たまに利用してい る (46 件)	19 41.3%	6 13.0%	25 54.3%	1 2.2%	26 56.5%	0 0.0%	20件 43.5%
C.過去に利用したこ とがある (17 件)	3 17.7%	10 58.8%	13 76.5%	4 23.5%	17 100.0%	0 0.0%	0件 0.0%
D.今まで利用したこ とがない (170 件)	13 7.7%	48 28.2%	61 35.9%	84 49.4%	145 85.3%	19 11.2%	6件 3.5%

2) 同行援護サービスの認知度との関係

同行援護サービスの利用意向を、認知度との関係でみていくと、よく知っている「E」では、ぜひ利用の「ア」が29件・32.6%と最も高く、これに条件があれば利用の「イ」の11件・12.4%を加えると、積極的な利用意向は40件・45.0%となった。これに将来的に利用の「ウ」の8件・9.0%を加えると、全体の利用意向は48件・54.0%となった。今後もしない「エ」は2件・2.3%であった。

ある程度知っている「F」では、将来的に利用の「ウ」が30件・30.0%で最も多くなった。これに積極的な利用意向の49件・49.0%（ぜひ利用の「ア」29件・29.0%+条件があれば利用の「イ」20件・20.0%）を加えると、全体の利用意向は79件・79.0%となった。今後もしない「エ」は3件・3.0%であった。

詳しく知らない「G」では、将来的に利用の「ウ」が37件・58.7%と最も高くなり、過半数を超えた。これに積極的な利用意向の18件・28.5%（ぜひ利用の「ア」5件・7.9%+条件があれば利用の「イ」13件・20.6%）を加えた全体の利用意向は55件・87.2%と認知度類型の中で最も多くなった。

まったく知らない「H」では、条件があれば利用の「イ」が23件・37.1%と最も高くなった。これにぜひ利用の「ア」5件・8.1%と、将来的に利用の「ウ」15件・24.2%を加えると、全体の利用意向は43件・69.4%となった。今後もしない「エ」は8件・12.9%と、認知度類型の中で最も高かった。

「ア.ぜひ利用したい」では認知度が高いほど利用意向が強い傾向が見られ、よく知っている「E」においては29件・32.6%、ある程度知っている「F」においては29件・29.0%、逆に詳しく知らない「G」においては5件・7.9%、まったく知らない「H」においては5件・8.1%と低くなっている。

一方、「イ.条件があれば利用したい」では、認知度の低い方が利用意向は強くなっており、詳しくは知らない「G」においては13件・20.6%、まったく知らない「H」においては23件・37.1%なのに対して、よく知っている「E」においては11件・12.4%、ある程度知っている「F」においては20件・20.0%となっている。

また、「ウ.今は利用しないが将来的に利用したいと思う」では、よく知っている「E」において8件・9.0%と低いのにに対して、ある程度知っている「F」においては30件・30.0%、詳しく知らない「G」においては37件・58.7%と高く、まったく知らない「H」においては1

5件・24.2%となっている。

「エ. 今後も利用しない」では、認知度が下がるにしたがって高くなる傾向にあり、よく知っている「E」においては2件・2.3%、ある程度知っている「F」においては3件・3.0%なのに対し、詳しく知らない「G」においては5件・7.9%、まったく知らない「H」においては8件・12.9%となっている。

表4-3：同行援護サービスの利用意向②（認知度）（上段：件、下段：%）

項 目	ア. ぜひ利用したい	イ. 条件があれば利用したい	ア+イ	ウ. 今は利用しないが将来的に利用したいと思う	ア+イ+ウ	エ. 今後も利用しない	オ. 未記入
E.よく知っている（89件）	29 32.6%	11 12.4%	40 45.0%	8 9.0%	48 54.0%	2 2.3%	39件 43.8%
F.ある程度知っている（100件）	29 29.0%	20 20.0%	49 49.0%	30 30.0%	79 79.0%	3 3.0%	18件 18.0%
G.詳しくは知らない（63件）	5 7.9%	13 20.6%	18 28.5%	37 58.7%	55 87.2%	5 7.9%	3件 4.8%
H.まったく知らない（62件）	5 8.1%	23 37.1%	28 45.2%	15 24.2%	43 69.4%	8 12.9%	11件 17.7%

5. 同行援護事業所の問題点等

同行援護事業所に対する問題点を自由記述で聞いたところ、177名から回答があった。

回答で目立ったのは、同行援護サービスの使い勝手の悪さで、特に、通院や事故等の緊急時または急用ができた場合など、必要な時に即時に利用できないことが27件と最も多く指摘されており、視覚障害者にとって最も接辞な問題であることがうかがえる。

また、予約時に時間帯や曜日、宿泊等の要望に応じてもらえないなど、思ったように、あるいは計画通りに利用できないという声も21件と全地域から上がっており、このあたりも制度の使い勝手の悪さに通じていると考えられる。

さらに、移動時は公共交通機関のみで自動車が利用できない（7件）、同行援護従業者の交通費等の負担が重い（6件）など、制度の運用にかかわる声も

根強いものがあった。

このような使い勝手の悪さの要因として、同行従業者が少ないという意見が全県から25件上がっており、特に県南地域9件、県央地域6件、県北地域5件と多く見られた。

これと並行して、事業所の数が少ない、あるいは地元に無いという意見も同様に県西地域を除く4地域から18件上がっており、特に県北地域9件、県南地域4件と目立っており、事業所の立地及び従業者の確保が同行援護制度の使い勝手の向上に必要とみられる。

なお、介護保険関係の業務が主で、同行援護に回せる余裕がないとの声も3件あり、従業者の担い手不足につながる指摘といえる。

また、制度の周知に関して、制度そのものや利用手続き等がわからないという意見が全地域から12件寄せられているが、制度の周知を望む声も9件と、特に県南地域で強かった。この件に関しては、制度を利用していないのでわからないという回答が12件、制度を知らないのでわからないという回答が5件あったことも考慮すると、制度の周知の重要性が示唆される。

その他の目立つ意見として、従業者のスキルが一定でなく、向上を望む声が5件、従業者との相性が問題とする意見が4件、待遇改善を望む意見が2件など、従業者に対する回答もあった。

また、支援内容については、事業所間で異なっており、予約状況や支援内容など、事業所の情報を開示してほしいという要望も5件あった。

なお、同行援護事業所・従業者に対する感謝の声も5件あったことを付記する。

表5：同行援護事業所に対する問題点（複数回答）

項 目	県北	県央	鹿行	県南	県西	未記入	合計
回答者数（人）	39	52	14	52	14	6	177人
必要な時（緊急時・急用時等）に利用できない	9	9		5	3	1	27件
職員（従業者）の人手が足りない（少ない）	5	6	3	9	1	1	25件
思い通り（時間帯・曜日・宿泊・長距離等）に利用できない	3	1	4	8	1	4	21件
事業所の数が少ない（地元に無い）	9	2	2	4		1	18件
制度や利用手続き等がわからない（知らなかった）	2	3	2	4	1		12件

制度の周知が必要				8	1		9件
公共交通機関以外利用できない（車を出してほしい）	3	2		1		1	7件
同行援護従業者の交通費等の費用負担が重い	2	2		1		1	6件
従業者のスキル（一定していない、未熟等）	1	1		3			5件
事業所の予約状況・支援内容等の情報開示		2	1	2			5件
従業者との相性		1	2			1	4件
事業所が介護保険関係で余裕がない			1	2			3件
飲酒を伴う行事・会議等は断られる					2		2件
支援内容が事業所で異なる	1	1					2件
点字で文書（利用時間の明細等）が欲しい	2						2件
個人のニーズに応じた対応		2					2件
市町村により対応が異なる		1		1			2件
事業所の収入増による人材の増（待遇改善）		1		1			2件
利用手続きの簡素化	1						1件
買い物を持ってほしい				1			1件
安い料金でお願いしたい	1						1件
通勤に利用できない	1						1件
盲人用の福祉施設を設置してほしい	1						1件
近所のスーパーに行きたい		1					1件
事業所が規約を守らない			1				1件
ケアマネージャーの意欲次第			1				1件
利用者との信頼関係を大切に		1					1件
認知度が低い		1					1件
アンケート結果の公表				1			1件
同行援護制度を継続してほしい				1			1件
事業所の縮小廃止の原因究明				1			1件
社会参加に規制をかけたこと					1		1件
制度を利用したことがない（していない）のでわからない	2	5	1	3		1	12件
制度を知らないのでわからない	1	2		2			5件
わからない	1	2		1			4件
特になし	6	14	3	5	3		31件
感謝	2				1	2	5件
合計	53	60	21	64	14	13	225件

